

大雪ものともせず

会津 明神ヶ岳山スキー

2月の建国記念日連休にわらじの仲間の皆さんからお誘いがあり、会津山岳会の大竹会長のご自宅に泊まり、日帰り山スキーをするという魅力的な山行に参加させてもらった。

しかし折しも悪天で日曜の飯豊前衛高陽山は現地で雨で中止、月曜の山は大竹会長が選んで頂いた里山に近い明神ヶ岳。同名の山が奥鬼怒にあり、「奥鬼怒山地」という本に紹介されているが、それとは違う。会津高田から博士峠を越える国道401号の途中にある。夏道もあるが沢沿いで大丈夫かな、と思っていた。

【日程】

2018年2月12日(月)

【メンバー】

鈴木(L)、棚橋、佐貫、古野

【地形図】

会津高田

【記】古野

2月12日(月)：雪

トマの風部隊は一泊二日で初日が中止ということで二日目は朝から雪だが行くしか無いな、という雰囲気か漂っていた。雪道の国道をたどり、大岩という集落の除雪終了点に着く。

支度をしていると除雪車に乗った人が「今日は大雪で、途中の沢沿いが雪崩れる危険性が高いから止めてくれ!」と言われた。強い調子であったがここは大竹さんが「地元でよく知っているが、危なかったら引き返すから。」ということで取りなしてくれた。

しばらくは広めの林道を歩く。幸い風はないが降りしきる雪は半端ではない。もっとも積雪量は20cmくらいで多くはない。地形図大岩、Co.600m付近に広域林道があり、そこから沢沿いの登山道が始まる。休憩後にビーコンチェックをするが合同パーティーで人数が10名もいたので全員のチェックをするのに時間がかかった。このあたりやり方を少し考えた方が良かった。



杉林を抜けると左右の斜面が開け、とくに右岸はガレているようで、なるべく左岸沿いに、しかも間隔を空けて登ることに。これで積雪量があと30cmも積もると嫌らしい。

核心部を抜けると稜線状の山道になり、狭間峠に着く。まばらな木立で滑りには良いだろう。休憩後、自分も申し訳程度にラッセルをして南東尾根を登る。頂上から東に伸びる稜線に乗るところが急でちょっと苦勞するがここを越えると山頂はすぐである。北側に登山道があるが通行禁止になっていた。

雪は少し小降りになったので記念写真を撮った後、登ってきたルートを下ることにする。稜線の斜度の強いところは堅い雪の上に新雪が積もっているのどツリ落ちる感覚があった。

峠まではパウダーで軽めの新雪ということで滑りを楽しめたが、例の沢の核心部は新雪とは



言え、雪が重くて処理が難しく、新雪の中に堅い雪の塊（デブリの残骸）が隠れていて、それにぶつかって転んでいる人も。

幸い雪崩の兆候もなく広域林道で休憩、あとはいつもよくある林道のトレースを滑る。実は自分はこのあまり好きではない。

最終日で帰京しなければならない我々にとっては適度の長さの行程で、会津の里山を楽しめた。

すごく降っていた雪も会津熱海からはウソのように無くなり、山という地形の気候に対する影響力を改めて感じたものでした。それと共に大竹会長の家の薪ストーブとご自身、奥様の気配り一杯のもてなしに暖かみを感じた二日間でした。

行程

2/12 元冨部落 (7:30) ~狭間

